

歴史

HISTORY



島で語り継がれる歴史

三島村にまつわる記録は「日本書紀」に初めて登場し、古くからの言い伝えも様々。中でも平家の落人伝説「安徳天皇」や、歌舞伎や能の演目として硫黄島でも上演された「俊寛」は特によく知られています。それに限らず、村指定文化財をはじめ村内に点在する史跡は様々な時代の歴史を知るヒントとして、今も研究者や村民有志による調査が続いています。



源平時代の確かな名残

治承元年(1177年)に平家打倒を謀ったとして俊寛が流刑となったのが当時鬼界ヶ島と呼ばれた硫黄島。粗末な庵を結びひとり住んでいましたが2年後、失意のうちに37歳で亡くなったと伝えられています。また、壇ノ浦の戦いで崩御したとされる安徳天皇は、硫黄島へ逃げ余生を送ったと言われています。

硫黄島にはこれらの伝説とともに史跡が各所に残っています。

俊寛像

平成7年5月に建立され、除幕式に招かれた故中村勘三郎丈(当時 中村勘九郎)の熱意で平成8年には三島村歌舞伎「俊寛」が硫黄島港の浜辺で上演されました。伝説の島、そして潮騒の白波寄せる砂浜、断崖絶壁を背にした砂の舞台は世界初の野外歌舞伎として広く報道されました。



俊寛堂

島の人たちは俊寛の生涯を哀れみ、俊寛が行き来した川原に墓を建て、のちに彼の住まいの跡に墓を移転し、俊寛堂として祀りました。



投筆の岩

硫黄島の断崖絶壁・矢筈岳の一角に俊寛が筆を投げて書いたと言われる梵字に似た岩のくぼみがあります。



安徳天皇御陵

硫黄島に逃げ落ちたとされる安徳帝の墓所は、子孫である長濱家によって臣下の墓とともに大切に祀られています。



黒木御所跡

安徳帝の御所。周囲を重臣たちが住んで守護していたと言われています。現在は三島村の歴史・文化資料の展示施設として整備されました。



イバドンの墓

平家追討に遭われた大庭三郎家政は、討伐後も黒島に残り生涯を送りました。



石斧

黒島は縄文早期~中期にかけて三島のうちで最も早く人が住み始めたと言われています。



大里の大墓

墓石群の規模が大きく、カブセ石を使うなど昔の葬制が残る貴重な史料です。



六地蔵

仏教において死後の世界を救うと言われており、1584年に竹島では各家の円満を願い建立されました。

民俗

CULTURE



個性あふれる伝統文化

鹿児島と奄美諸島に位置する三島村の民俗・芸能は、鹿児島本土のそれと似通っていますが、安徳天皇や平家ゆかりの落人によって持ち込まれた風習や、海上の道を伝い琉球文化の影響も受け、独自の精神文化を醸成してきました。海に囲まれた離島ゆえに今もなお古式の民俗・風習が伝承され、中でも八朔踊りの際に出現する、厄をはらい繁栄と活力を村にもたらす来訪神は世界的にも貴重な民俗芸能で、ユネスコの文化遺産に登録されています。

国の重要無形民俗文化財

ユネスコ無形文化遺産

硫黄島八朔太鼓踊り(メンドン)



硫黄島の八朔太鼓踊りでは、踊りの途中で登場する神様。手に持った小枝(スッペン木)で叩かれると悪霊が払われると言われています。

竹島八朔太鼓踊り(タカメン)



竹島の八朔太鼓踊りは、鉦と太鼓の音とともに奉納されます。高さ1m以上もあるタカメンと呼ばれる面を着けて仮面神となった村人も現れ、人々とともに踊ります。

黒島八朔踊り(オニメン)



黒島の八朔踊りでは、腰にひょうたんをぶら下げた仮面神たちが、すりごごとしゃもじをうち鳴らしながら隊列を組んで踊ります。繁栄への祈りと日本芸能が融合した民俗文化が見られます。



県の無形民俗文化財



馬方踊り(竹島)

疱瘡(天然痘)などの伝染病で亡くなる人が多く、特に悲惨であった1793年から始まった婦人による踊り。踊り手は二人一組で馬の手綱に見立てた帯を持って踊り、その周りを旦那二人が面白おかしく即興文句を怒鳴りながらまわります。



九月踊り(硫黄島)

疱瘡よけに踊ったもの。長濱伊豆守吉明の弟の権之丞吉繁が大阪に行った折、大阪の人に数曲作ってもらい、自ら習い覚えて帰島し、人々に教えたのが起源と言われています。



太鼓踊り・手踊り(黒島・片泊)

盆踊りのひとつ。背中に矢旗を背負い、鉦、太鼓を打ち鳴らして5種の歌に合わせて隊列を変えながら男性が舞う「太鼓踊り」の後、女性による手踊りが奉納されます。



柱松(硫黄島)

俊寛の霊を悼む送り火と言われている。巨大な柱松に火のついた松明を投げ上げる行事。盆踊りの最後に行われます。



ナギナタ踊り(黒島 大里)

長刀組と太刀組に分かれて打ち合う勇壮な踊りで、隊列の変化が特徴的。本土に見られる棒踊りの一種と見られています。

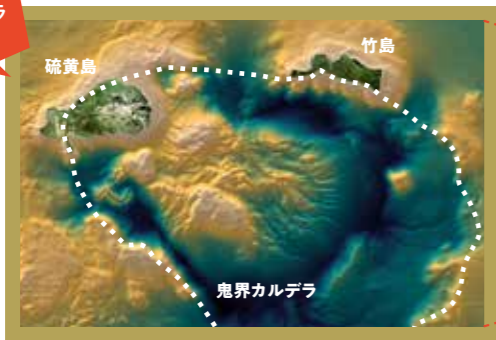




三島村・鬼界カルデラジオパーク

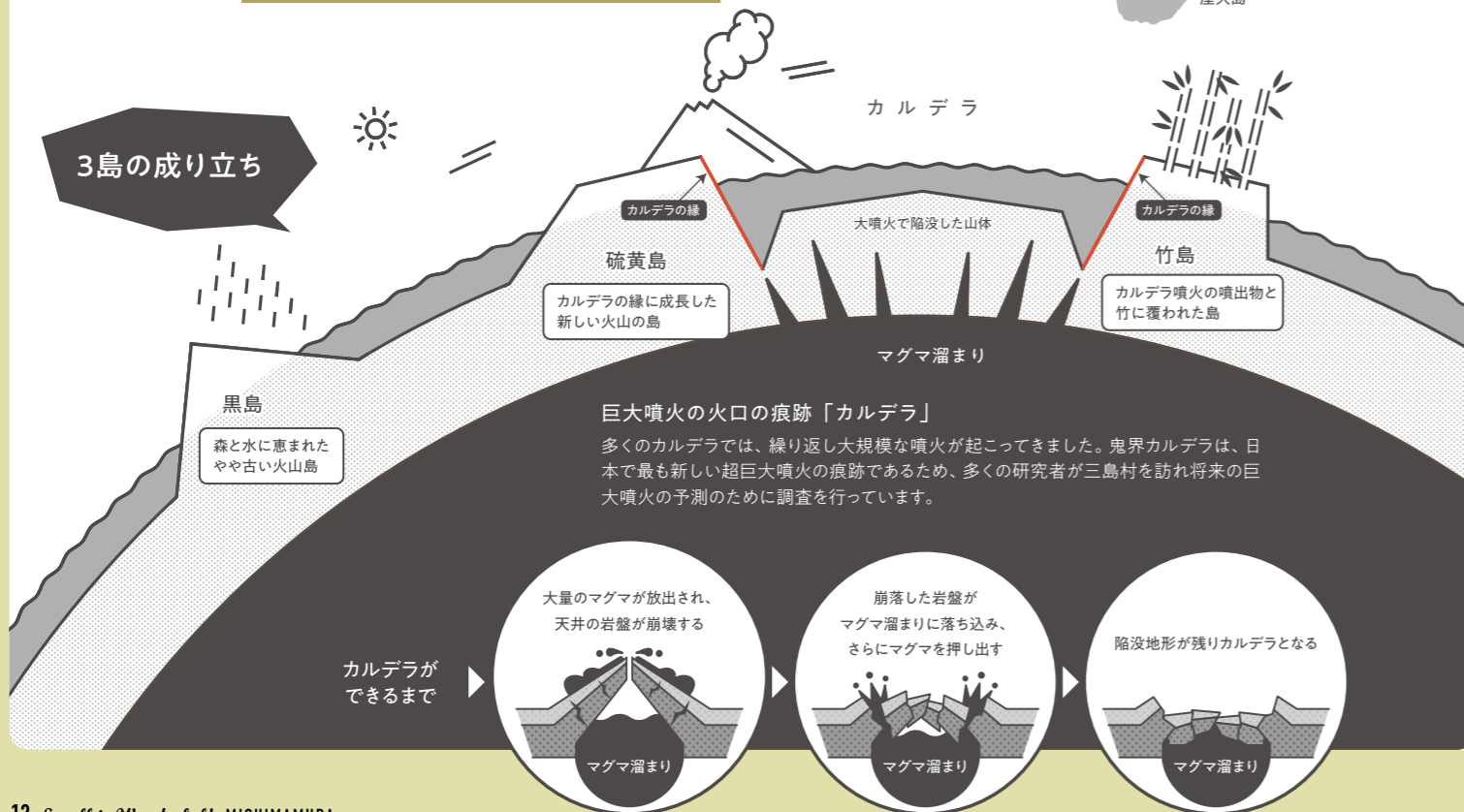
三島村・鬼界カルデラジオパークは、竹島・硫黄島・黒島の横並びの3島が全く違う表情を見せる、数少ない離島のジオパークです。その最大の特徴は、何と言っても「鬼界カルデラ」。約7,300年前に地球上最大規模の噴火を起こした火山の痕跡が、ここにあります。また、今も噴煙を上げる活火山の硫黄岳や、その周囲に広がる温泉の海も大きな特色となっています。

鬼界カルデラ
海底地形図



三島村・鬼界カルデラジオパーク

3島の成り立ち



A 赤壁



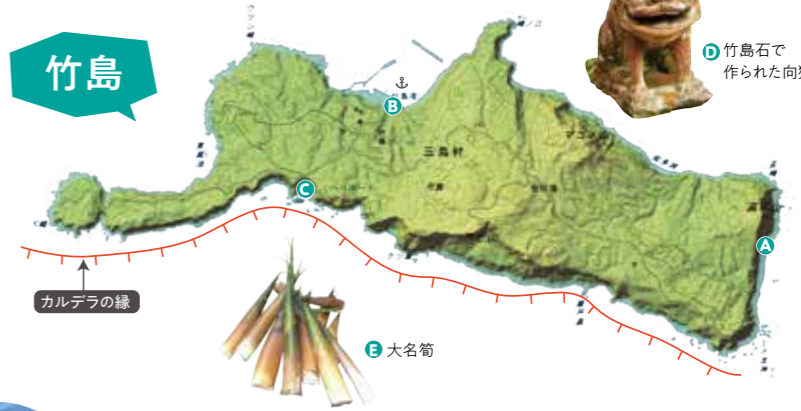
B 竹島港の火砕流堆積物



C 籠港(カルデラの縁)

- A 古い火山の噴火により赤壁をつくる赤い地層ができました。
- B 次に、7300年前のカルデラ噴火により火砕流が噴出し堆積します。その一部は固結して凝灰岩になりました。
- C 同時に、カルデラが陥没し、竹島の南側に断崖が現れます。
- D カルデラ噴火によってできた凝灰岩は、300年ほど前の江戸時代より「竹島石」として石材に使われるようになりました。
- E また、火砕流に覆われた大地にはリュウキュウチクが生えるようになり、現在私たちは特産品の「大名筍」としてその恵みを頂いています。

竹島



D 竹島石で作られた向獅子

E 大名筍



F カルデラの縁



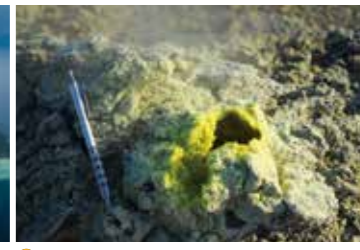
I 俊寛

硫黄島

- F 7300年前にカルデラ噴火が起こり、島を縦断する断崖が形成されました。
- G その後、5300年ほど前から活火山である硫黄岳が新しく成長をはじめます。
- H 硫黄岳の山頂や山腹には多数の噴気孔があり、そこには多くの硫黄がみられるようになりました。
- I 800年ほど前に硫黄島に配流された俊寛の物語にも、当時の人々が硫黄を採取して生計をたてる様子が描かれています。
- J 硫黄岳の硫黄の採掘は昭和38年に終わりましたが、現在では硫黄を用いて火薬を調合し、線香花火をつくる体験を実施しています。



G 硫黄岳



H 噴気と硫黄



J 線香花火

- K 黒島は、竹島や硫黄島より古い火山島として生まれました。波の力で浸食を受け、当時の島の内部が見えるようになりました。
- L 火砕流や溶岩が重なってできた台地も、長い年月をかけて水の力で削られてゆきます。
- M 削り残されたなだらかな台地が、現在では放牧地として使われています。
- N その台地で育てられる牛は自生するリュウキュウチクをたべ、足腰が強く健康な牛となります。現在では畜産は村の基幹産業となっています。

黒島



N 放牧牛



L ナゴン谷の滝



M 赤鼻牧場



K 塩手鼻



地球を感じる大地、個性的な動植物

現在も活発な噴煙をあげる硫黄岳のまわりには、見た目にも美しい温泉の恵みがあります。おおむね亜熱帯的の海洋性気候の温暖な3つの島では四季を通じて多彩な自然の風景が見られます。鬼界カルデラの外輪山である竹島と硫黄島は島の大部分をリュウキュウチク(大名竹)が覆い、黒島は広葉樹の原生林が残されています。三つの島の周囲は黒潮の恩恵を感じさせる天然の良漁場であり、渡り鳥の中継地点として豊富な種類が観察することもできます。



黒島ミカン

島民が大切に守ってきた黒島のミカン。完熟前は香りが強く、完熟後はほのかに甘くさっぱりとした味わいです。



大名竹

3つの島の面積の多くを竹林が占めています。リュウキュウチクという種類の竹で、沖縄や鹿児島にのみ分布します。



ツバキ

硫黄岳に自生し、開花期の2月頃になるとカメリアロードは赤一色に彩られます。



ヤマツツジ

黒島の山野を彩る高さ1~4mの半落葉低木。朱色~赤色の花をつけるのが特徴。



シャリンバイ

バラ科の常緑低木で葉は楕円形で厚く、ツヤがあります。5月頃紅淡色の花をつけ、かつて硫黄島では、その実を使った郷土食「シャリンバイモチ」が作られていました。



ツワブキ

島内のあちこちに自生し、若い葉は食用として珍重されています。初冬には黄色の花を咲かせ島民の目を楽しませています。



ガジュマル

常緑の高木で、多数の垂れ下がった気根が地面につくと支持根となるのが特徴。島のあちこちに自生しています。



①ミシマイオウノコギリクワガタ
②クロシマノコギリクワガタ

動植物の宝庫・三島村には、子どもたちに人気者のクワガタもいます。地域によって様々な種類が棲息しています。



タケシマヤツシロラン

2012年に発見された新種のラン。光合成もせず花も咲かせない、閉鎖花のみをつける非常に特殊な特徴があります。



三島村の楽しみ方

ジオパークや県立自然公園などに指定される豊かな自然。そして、独特の文化や歴史、そして人のあたたかさ魅力の三島村。そんな離島の旅には、事前に知っておくことや準備しておくべきことがあります。天候次第では無理しないことも大切です。島へ渡ったら、大自然の中で島民とのふれあいを楽しみながら、思い思いに過ごしてみてください。



旅の準備



島を選ぼう

興味に合わせて、行きたい島を決めましょう。



日程を決めよう

運航予定が月毎に異なり、台風や悪天候で予定通り運航しないこともあります。予備日や余裕を持った日程を確保しましょう。
※フェリーみしまの情報をご確認ください。



予約しよう

テント泊や車中泊以外なら、事前に宿を予約しましょう。小さな商店はありますが、食事できる場所がないので要注意。船に自動車を乗せる場合や、体験・ガイド予約はお早めに。



荷造りしよう

現金、常用薬、行きフェリーで食べる昼ごはん等

※フェリーみしまを利用して3つの島を巡るには、3泊以上の日程が必要です。



各島でできる体験

各体験については三島村観光案内所(☎09913-2-2370)へお問い合わせください。

竹島

- ・島一周ウォーキング
- ・竹島歴史の石巡り

硫黄島

- ・サイクリング・トレッキング
- ・歴史散策・ジャンベ体験(要予約)

黒島

- ・自然道散策・生物観察・焼酎蔵見学
- ・大ウナギ観察・神社巡り・星空観察



釣り(三島村全域)



周囲を岩に囲まれた三島村は全体が好漁場。暖流に洗われる瀬は年間を通じて格好の釣り場で、県内外から多くの釣り客が訪れています。インダイ、クロダイ、シマアジ、ヒラマサ、サワラと大物をねらう醍醐味を味わえます。

温泉(硫黄島)



硫黄島にはいくつかの天然温泉があります。島の南側にある東温泉は皮膚病にも効能があると言われるミョウバン泉。白波打ち寄せる岩場に湧き、絶景が魅力です。島の北側にある坂本温泉は約50℃の源泉と海水が混じり適温を見計らって入浴できます。
※潮の干満を調べてから訪れてください。

焼酎蔵見学(黒島)



全国でも珍しい公設公営・離島の焼酎蔵。黒島の良質な軟水は地球の恵みをたっぷり含み、「焼酎みしま村」の甘みや香りを引き立てます。通年、1名から無料見学可能(予約制) 所要時間約20分
詳しくは「無垢の蔵」TEL 09913-3-2345まで

三島村とジャンベ

1994年夏、「日本の小さな村の子どもたちと交流したい」との思いでやってきた、ギニア共和国のジャンベフォラ(ジャンベの神様)の「ママディ・ケイタ」とそのグループ「セワ・カン」のメンバー。初めは戸惑う子どもたちも、「うまく叩く必要はないんだよ。楽しんで叩くことができれば、聞いているみんなも幸せになれるんだよ」という言葉に励まされ、演奏する喜びを感じるようになっていきました。以来、三島村には子どもたちの楽しい歌声とジャンベのリズムが響いています。今や三島村は、ギニア共和国の伝統芸能「ジャンベ」を村の新しい芸能にとり入れ、ギニア共和国との友好的な関係を築き上げています。



マリンケ族やバンバラ族などギニア共和国をはじめとする西アフリカの伝統打楽器、ジャンベ。その達人はジャンベフォラと呼ばれ、自然の精霊と会話ができると言われています。その一人であるママディ・ケイタ氏監修のもと、2004年に設立したアジア初のジャンベ習得の専用施設「みしまジャンベスクール」では誰でもジャンベを体験することができます。三島村では、豊かな自然の中でジャンベを学びたい人のために6ヶ月の短期留学生を募集しています。地区会奉仕活動や村主催イベントにスタッフとして参加したり、地域の活性化に貢献しながらアイランドライフを体感することができます。



ジャンベ・フォラ (故)ママディ・ケイタ氏



ママディ・ケイタ追悼イベントの様子

MISHIMA CUP ヨットレース

三島村で最も規模の大きいイベントで、今や鹿児島を代表するイベントに成長しました。全国から集まったヨットは枕崎を出発し一路三島村を目指します。レース後は硫黄島で盛大にウェルカムパーティーが開かれます。



平成2年から始まり、近年では7月末に開催されています。毎年およそ30艇、約200人のクルーが全国から参加します。イベントのスタート当初は、様々な課題を解決するため村民・行政が意見を出し合い、4つの地域が強い連帯感を持つ村おこしの活力となりました。今では、村人による「手づくり」のレースとして全国のヨットマンに知られる大会です。





芋焼酎



三島村は「焼酎」で地域おこし

2018年に「焼酎特区」の認定を受け、黒島に念願の「みしま焼酎無垢の蔵」が建設されました。全国的にも珍しい公設公営の焼酎蔵で、焼酎づくりを核とした地域おこしプロジェクトが行われています。島内で収穫されたサツマイモと黒島のおいしい水を使ってできる焼酎は、まろやかな口あたりでどっしりとしたコクのある味わいです。

小さな焼酎蔵で
丁寧につくっています



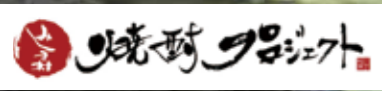
焼酎みしま村



焼酎メンドン



島の水と土が生み出す 無垢の香り
焼酎みしま村



原料となるさつま芋・ベニオトメは、蔵子をはじめ、老人会や農家の方々と一丸となって栽培しています。



焼酎蔵は、おいしい焼酎づくりのほか、島民や移住者の「雇用の場」にもなっています。

大名筍



濃厚な味と歯ごたえの「筍の王様」

アク抜きいらずで、生で食べられるほど爽やか。簡単に調理でき、筍本来の美味しさを味わえます。5、6月が旬。



自生する良質な椿をお土産に

椿油には、髪や肌をしっとり艶やかに保つ効果があります。

また、揚げ物やドレッシングなど食用としても使えます。

やぶ椿



椿油



三島椿うどん



かめりあそーぶ

黒島みかん



黒島の香りたつ小さな柑橘

柑橘本来の酸味や香りを存分にひきだした、お菓子やドリンクがお土産として人気です。



黒島みかんシフォンケーキ



M187 MISHIMA BOTANICAL CIDER



黒島みかんクッキー